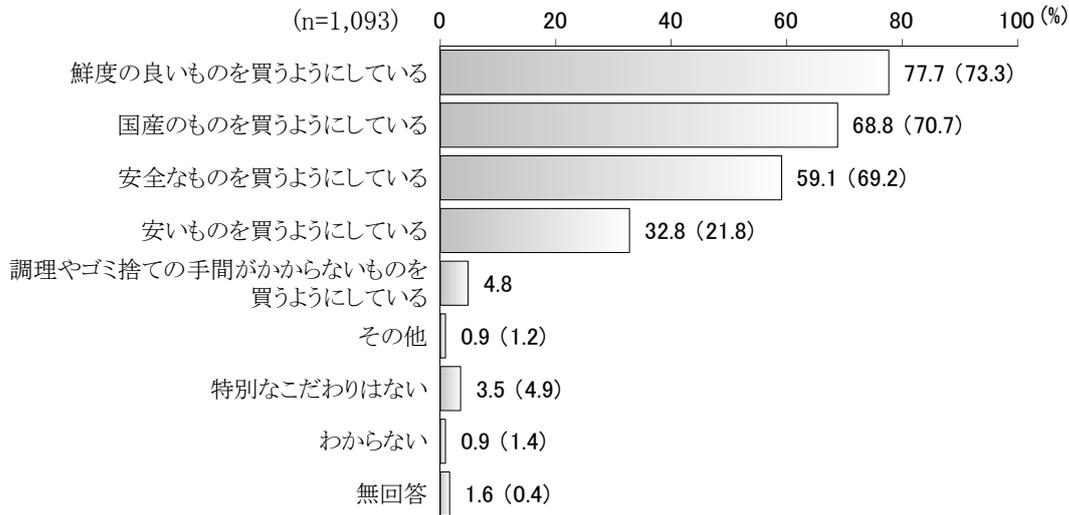


X 農林水産物の購入に関する意識

1. 農林水産物の購入時に気にかけていること

－「鮮度の良いものを買うようにしている」が約8割－

問29 農林水産物を購入するときに、気にかけていることは何ですか。次の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。



※()内の数値は、平成26年の調査結果

※「調理やゴミ捨ての手間がかからないものを買うようにしている」は、平成26年では選択肢になし

農林水産物の購入時に気にかけていることとしては、「鮮度の良いものを買うようにしている」(77.7%)が約8割と最も高く、次いで、「国産のものを買うようにしている」(68.8%)が6割台、「安全なものを買うようにしている」(59.1%)が5割台で続いている。

－「安いものを買うようにしている」が11ポイント増加－

前回調査(平成26年)と比べると、「安いものを買うようにしている」が11ポイント増加している。一方、「安全なものを買うようにしている」は約10ポイント減少している。

－鹿行で「国産のものを買うようにしている」が7割台半ば－

地域別でみると、「国産のものを買うようにしている」は、鹿行(75.0%)で7割台半ばと最も高くなっている。

－女性で「国産のものを買うようにしている」が男性よりも約6ポイント高い－

性別でみると、「国産のものを買うようにしている」は、女性(71.5%)が男性(66.0%)よりも約6ポイント高くなっている。

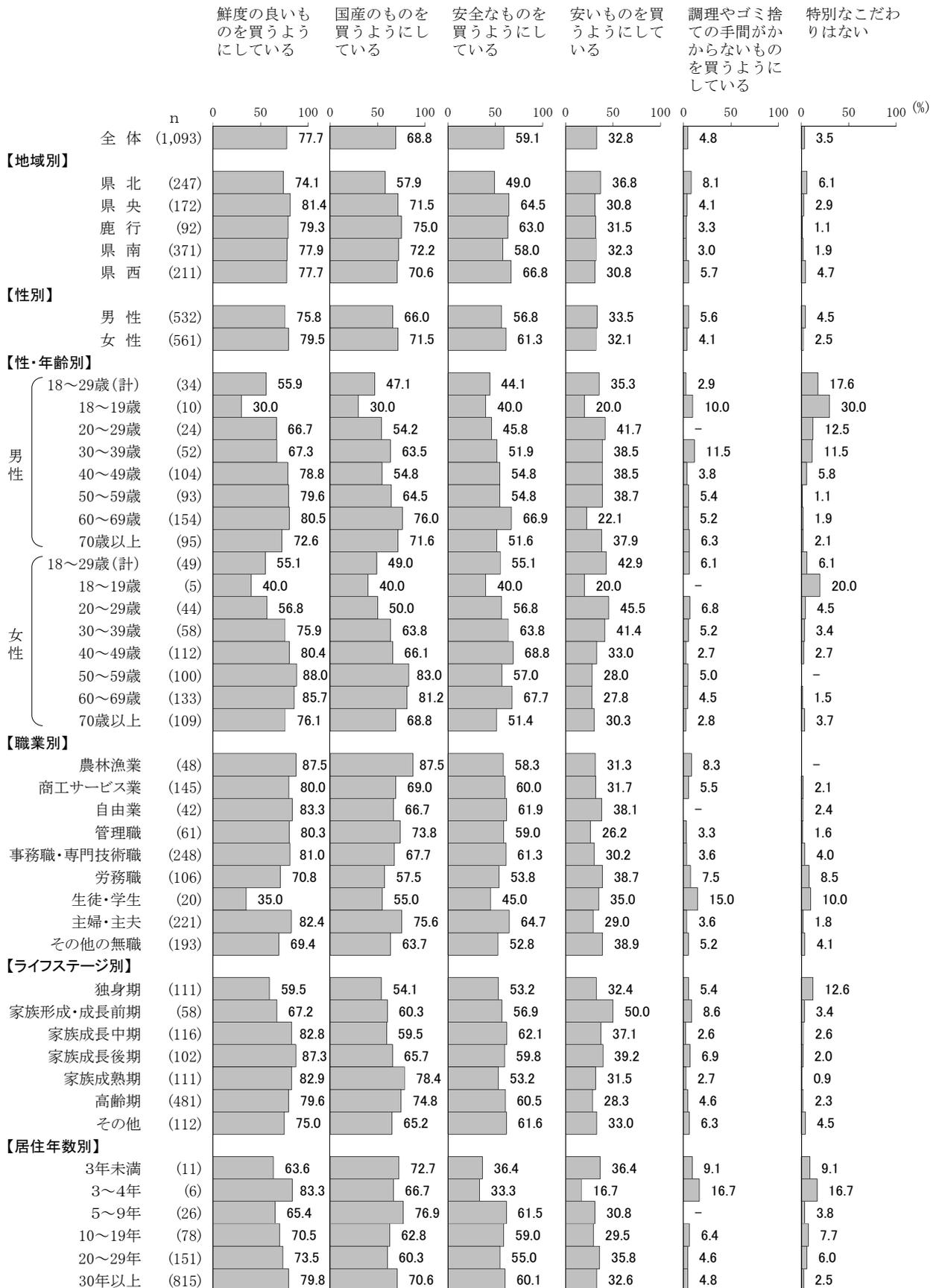
－女性の50代で「鮮度の良いものを買うようにしている」が約9割－

性・年齢別でみると、「鮮度の良いものを買うようにしている」は、女性の50代(88.0%)で約9割と最も高く、女性の60代(85.7%)で8割台半ばと高くなっている。

－女性の50代と60代で「国産のものを買うようにしている」が8割台－

性・年齢別でみると、「国産のものを買うようにしている」は、女性の50代(83.0%)と60代(81.2%)で8割台と高くなっている。

図X 29-1 農林水産物の購入時に気にかけていること
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)

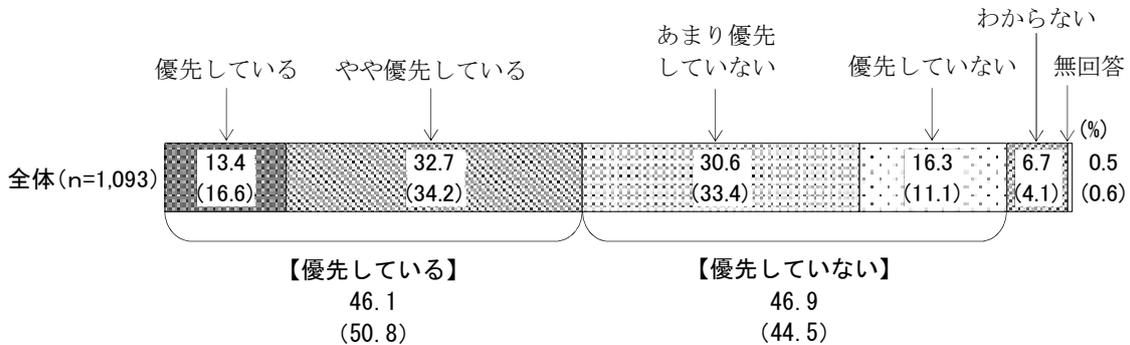


(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

2. 農林水産物の購入時における茨城県産の優先度

－【優先している】は4割台半ば－

問30 あなたは、農林水産物を購入する際、茨城県産を優先して購入していますか。次の中から、一番近いものを1つだけ選び、理由をお聞かせください。



※()内の数値は、平成26年の調査結果

農林水産物の購入時における茨城県産の優先度としては、「優先している」(13.4%)と「やや優先している」(32.7%)を合わせた【優先している】(46.1%)は4割台半ばとなっている。一方、「あまり優先していない」(30.6%)と「優先していない」(16.3%)を合わせた【優先していない】(46.9%)も4割台半ばとなっている。

－【優先している】が約5ポイント減少－

前回調査(平成26年)と比べると、【優先している】は約5ポイント減少している。

－県央で【優先している】が5割台半ば－

地域別でみると、【優先している】は、県央(55.2%)で5割台半ばと最も高くなっている。

－女性で【優先している】が男性よりも約14ポイント高い－

性別でみると、【優先している】は、女性(53.0%)が男性(38.8%)よりも約14ポイント高くなっている。

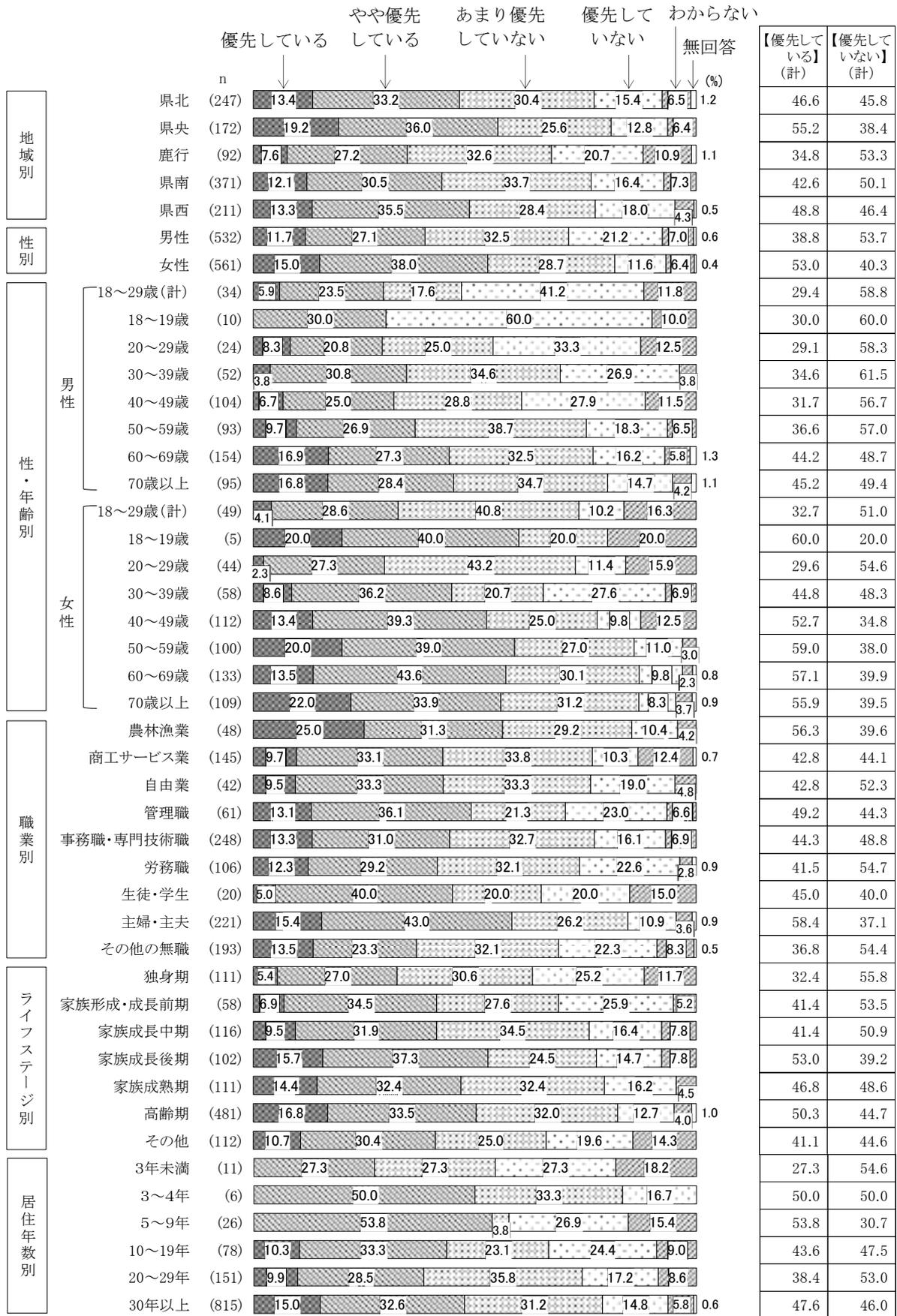
－女性の50代と60代で【優先している】が約6割－

性・年齢別でみると、【優先している】は、女性の50代(59.0%)と60代(57.1%)で約6割と高く、次いで、女性の70歳以上(55.9%)で5割台半ばと高くなっている。

－農林漁業と主婦・主夫で【優先している】が5割台後半－

職業別でみると、【優先している】は、農林漁業(56.3%)と主婦・主夫(58.4%)で5割台後半と高くなっている。

図X 30-1 農林水産物の購入時における茨城県産の優先度
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)

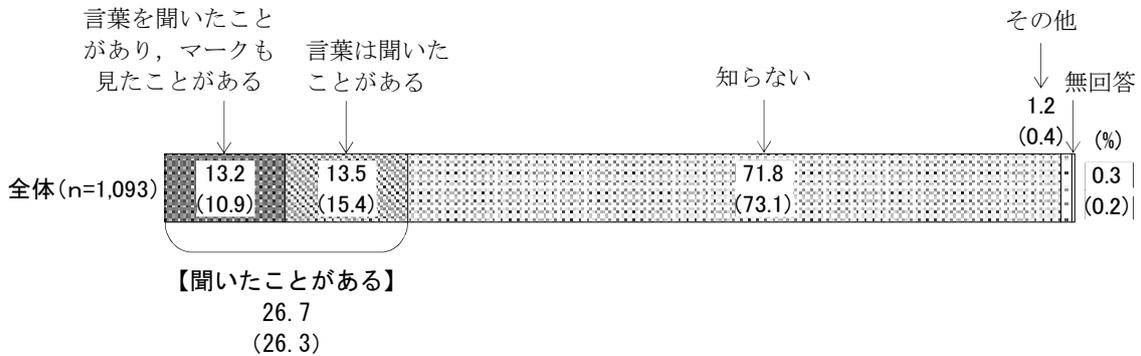


(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

3. 「茨城をたべよう運動」の認知度

－【聞いたことがある】は2割台半ば－

問31 「茨城をたべよう運動」を知っていますか。次の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成26年の調査結果

「茨城をたべよう運動」の認知度としては、「言葉を聞いたことがある、マークも見つかった」（13.2%）と「言葉は聞いたことがある」（13.5%）を合わせた【聞いたことがある】（26.7%）は2割台半ばとなっている。一方、「知らない」（71.8%）は7割を超えている。

－特に大きな増減はない－

前回調査（平成26年）と比べると、特に大きな差はみられない。

－県央で【聞いたことがある】が約4割－

地域別でみると、【聞いたことがある】は、県央（40.1%）で約4割と最も高く、次いで、県北（36.8%）で3割台半ばと高くなっている。

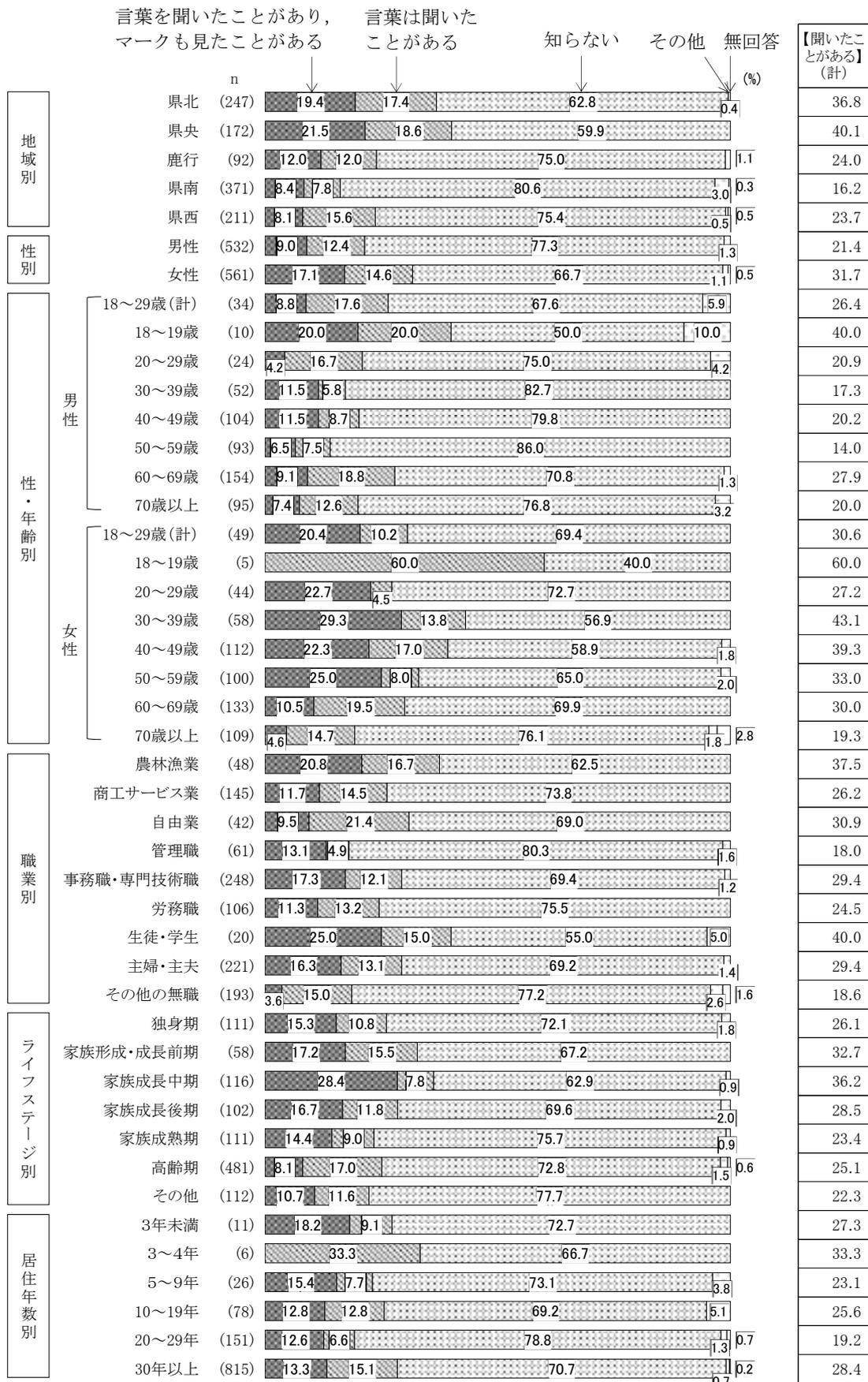
－女性で【聞いたことがある】が男性よりも約10ポイント高い－

性別でみると、【聞いたことがある】は、女性（31.7%）が男性（21.4%）よりも約10ポイント高くなっている。

－女性の30代で【聞いたことがある】が4割台半ば－

性・年齢別でみると、【聞いたことがある】は、女性の30代（43.1%）で4割台半ばと高く、次いで、女性の40代（39.3%）で約4割となっている。

図X 31-1 「茨城をたべよう運動」の認知度
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。